

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 宮城県白石市立斎川小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 989-0215

宮城県白石市斎川字町尻南1-1

E-mail info@saikawa-e.shiroishi-c.ed.jp

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 11 名 女子 6 名 合計 17 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 12 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「たくましい心と体・学ぶ意欲をもつ、心豊かな児童を育てる」を学校理念として、ESD を地域と学校との協働教育と捉え、ESD の実践を通して地域を愛する心を育む力の育成を目標とした。

具体的には、環境、生物多様性、地域の伝統文化・文化遺産を柱に、①水生生物と環境に係わる活動、②地域の伝統文化・文化遺産に係わる学習を行った。

### ① 水生生物と環境に係わる活動

水生生物 (特に、地域の特産となっていた『孫太郎虫』) の採取や観察を行い、水質及び成長に伴う様々な要因を探る活動を通して、地域の環境保全の大切さを実感させ、環境に対する意識を高めることを目的とし、昔、斎川地域で特産とされていた子どもの疳の虫に効く薬で、ヘビトンボの幼虫である『孫太郎虫』探検隊を組織した。学校付近にある農業用水路や川 (斎川) に生息する生き物を採取し調査した。また、用水路や池などの水源をたどりながら、さらに上流域の生き物調査を実施した。これらの活動をもとに、生態系保全の大切さをポスターにし、啓発活動を行った。

## ② 地域の伝統文化・文化遺産に係わる学習

地域の伝統的な小正月行事について理解し、地域を愛する気持ちを育むことを目的とし、「笹巻き」「ころ柿」「注連縄」「団子さし」について、制作体験を行った。地域の方々をゲストティーチャーとして招き、由来と地域で継承されている要因について説明を聞き、その後ゲストティーチャーの指導の下、制作作業に取り組んだ。また、地域の歴史にも関心を広げ、文化遺産として、「甲冑堂」「検断屋敷」の調査に加え、「坂上田村麻呂」「源忠信・継信」「松尾芭蕉」といった歴史上の人物との関わりのある地域という認識を強くしていた。また、学習したことを地域紹介のパンフレットにまとめ、地域の方々や他校との交流の際に発表と合わせて配付した。



① 水生生物と環境に係わる活動



② 地域の伝統文化・文化遺産に係わる学習



① 水生生物と環境に係わる活動



② 地域の伝統文化・文化遺産に係わる学習

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

ブリタニカ百科事典, 私の孫太郎虫学
--------------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

生活科では「生きもの なかよし 大作せん」の単元の中に位置付け、また、総合的な学習の時間では「斎川の自然を知ろう」「ふるさとの歴史と伝統文化を調べよう」の単元の中に位置付け、地域ボランティアの方々と連絡会を開催しながら、単年度の活動を複数年度に渡る活動に変更したり、児童の関心を取り入れた活動内容にしたりと年度当初の計画に修正を加えながら、児童が関心を高め、継続できるように改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

自治会と連絡を密に取り、学校の要望と自治会に所属している各種団体の協力可能な内容について協議する事前打ち合わせ会を設定し、協働で児童の育成を目指している。また、土地改良区と連携を図り、必要に応じて活動可能な環境作りについて協議を重ねている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

職員評価では、子供たちの学習意欲が高まり、新たな問いを子供たち自らがもつようになってきた。また、地域素材が豊富なことより、各学年に割り振るなど、系統立てた計画が必要である。外部評価では、地域の方々との触れ合う機会が増え、地域理解が進むことが期待されるため、児童の実情に応じた活動内容での継続を望まれた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ボランティアの方々への感謝の会、市内ユネスコスクールの研修会で、地域について調べたことについて発表を行った。感謝の会では、ボランティアの方々も知らないことが多く、大変勉強になったという感想をいただいた。研修会では、パンフレットに加え、パワーポイントによるプレゼンテーションを作成し発表を行った。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

水土里ネットと連携し、地域の水生物調査を実施した。2回の活動を計画し、活動内容等を協働で立案した。活動後には、改善点等を検討し、活動内容の改善に努めた。また、活動内容を水土里ネットのホームページに掲載していただき、成果の発信に努めた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

市内のユネスコスクール加盟の小学校と交流会を開催し、互いの活動について発表し合った。互いの活動が自分たちの地域では体験できない内容であったことで、質問が飛び交っており、関心を高めていることが伺われる。今後は、互いの活動を両校が体験できる指導計画を立案・実施できるように調整していくことが必要である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

地域の中での活動が中心となったため、水生生物調査では、新たな場所について、地域の方から情報提供をいただいたり、伝統文化体験では、地域の多くの方々からボランティアの協力をいただいたりすることができた。児童は、感謝の気持ちを手紙にしたため、思いを伝えようとする意識が高まった。また、地域の方々へのあいさつも進んで行うようになってきた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成29年度末で、本校は閉校となるため活動計画は無し。